



ありんに便り

2012年
12月25日
発行
通巻第11号

由木かたくりの会の家族会「ありの会」会報

「ありの会」へのご意見・ご要望は、〒192-0355 八王子市堀之内1236-8 社会福祉法人 由木かたくりの会 気付「ありんこポスト」 までに郵送するか、ポストに直接投函して下さい。Eメールで送る場合のアドレスは《 arinko_renraku@yahoo.co.jp 》へ。ホームページは《 http://space.geocities.jp/arinko_renraku 》です。

かたくり祭り2012 フェスタかたかこ



朝から職員による会場・売店の設営、ありの会のお母さん方の料理仕込みなどあわただしいなかにも和気あいあいと進められた。

12時、開会。今回から、かたくりの活動を理解してもらおうと広く地域のみなさんに参加を呼びかけた。それが前回のかたくりの内々の親睦会と大きく異なる。このため模擬店や催し物を多くし工夫を凝らしたので、早々から小さい子供連れの若い夫婦の数組が見られたのはうれしかった。

11月10日、地域に開かれた祭りへと装いを新たに、フェスタかたかこ（かたくり祭り2012）は、好天にも恵まれ、予想以上の盛り上がりを見せ、開催された。

おいしい、楽しい、おもしろい、がいっぱい

催し物では、八王子市マジックグループによるマジックショー、大妻女子大バレーンアート同好会のバレーンアート、薬科大の合唱団のコーラス、それに利用者の太鼓

と楽しさいっぱい。これにパン釣り、輪投げ、ストラックアウト、風船で剣や花をつくる遊びと、おもしろさいっぱいであった。地域の趣味の会や大学のサークルがボランティアとして参加してくれた意義は大きいものでした。



模擬店では、会員による焼きそば、フランク、豚汁、飲み物などもよく出たが、今どき果たして売れるものかと心配されたフリーマーケットが盛況であったのはまったくの予想外でした。ベーカリーのパンなどはたちまち完売。由木工房の新鮮野菜も売り切れた。肝心の地域の方の

参加はどのくらいあったか。正確な数はわからないのは、目立たない「受付」を通りこしてバザー、売店に急いだお客さんが多いためであった。地域に開放された初めての企画として、不慣れからくる不備やもつとこうすればという思いは多々あるが、全体にはよくここまでやれた、な

によりも職員、ありの会がよく協力しあつて完成させた姿勢を高く評価したいと思ひます。



参加はどのくらいあったか。正確な数はわからないのは、目立たない「受付」を通りこしてバザー、売店に急いだお客さんが多いためであった。地域に開放された初めての企画として、不慣れからくる不備やもつとこうすればという思いは多々あるが、全体にはよくここまでやれた、な



全体的に進行時間がやや緩やかであった。販売が時間前に始まっていきなり、終了時間が予定より早くなった。このため買うつもりのもので、売れてしまった。客科大生の合唱では客

（課題）



がちらほら。あまり厳密なスケジュールは窮屈で、臨機応変の対応も必要だが、全体の進行、時間配分とイベントの盛り上げ方にもう工夫がほしい。

会場の配置では、休憩用のテーブル数が不足とか傾斜地にブルーシートでは落ち着かないなど。また「受付」が分からなかった。次回以降の参加者増に備え、家の裏の利用など含めて考えたい。

・参加者が全体で盛り上がるようなイベント。例えばビンゴゲーム。参加費一人100円取れば

（感想）

・これから結婚式に出るが、どんなか心配で寄ってみた。これなら大丈夫そうだった。（理事のSさん）

会計報告など （施設販売売上げ）

かたくりの家	23,400円
由木工房（福島販売込み）	22,560円
ぶらさ	32,120円
模擬店（法人に防災用具購入資金として寄付）	43,660円

（支出）	
模擬店材料費	139,955円
法人雑費	17,418円

（各負担按分）	
後援会	20,000円
かたくりの会	66,431円
ありの会	70,942円

（参加者数）・一般客40人・家族40組（80人）
・職員32人・利用者40人・ボランティア36人
合計約228人

設公開するなどの積極的な取り組みがあった。例えば、部署ごとに活動、成果を見せ、体験的に理解できるような企画など。

かなり豪華な景品をつけられ、わっと盛り上がる。これを1、2回挟み込むなどどう？（会員Oさん）

・調理の裏方をやっていたが忙しくて昼食をとる間もない。みな忙しそう交代も頼めない。全体の流れを見て調整する本部・司令塔がいるといいと思った。

（会員Tさん）

・地域の方の声を聴きたかったが、だいぶ酔っていたので、声を掛けられなかった。誰か聴いている人、教えて！（会長）



フエスタかたかご

家族会の皆様にはいつも大変お世話になっております。さて、11月10日(土)には「フエスタかたかご」

由木かたくり祭りに「こ」が晴天のもとで盛大に行われました。

今年は、由木かたくりの会、家族会ありの会、後援会の三者の協力により開催されました。当日の作業はもとより、準備の段階から家族会の皆様が大変御世話になりました。お礼を申し上げます。

地域の方も40名程来られ、ボランティアの皆さんも40名近く参加され、利用者およびご家族の皆様にも楽しんでいただきました。

また、イベントの売上げ金については、会の防災用具の購入に充てる費用と寄付

をいただき感謝申し上げます。来年度は、さらに工夫して施設内をみていただき、私たちの活動を地域の方に理解していただけるようにしたいと考えます。

ケアホーム

また、11月14日(水)には東京都にケアホームの事業を申請を行いました。男子棟6名、女子棟

今年は大変お世話になりました
来年もどうぞよろしく
お願いいたします



に配慮しました。
① 利用者にとつて我が家のような住みやすさ(家庭的な雰

炭谷晃男

プライバシーを保ち、広いリビングでゆったりと過ごす

② 安心、安全な建物(スプリングクラー、介助可能な浴槽、安全な平家建て)

③ 環境にやさしい(太陽光発電、蓄電機能、雨水利用)

④ 地域の方への配慮(地域の方も利用・活用、災害時の拠点)
⑤ 職員も働きやすい(目が行き届く対面キッチン等)

これらのコンセプト作りには、楓設計室代表加藤陽介様、八王子福祉園地域コーディネーター芝敏子様に大変御世話になりました。

本計画には、多額の資金が必要になります。大半は公的な補助で当てることとができますが、施設としての自助努力が必要になります。つきましては、家族会や後援

会の皆様に資金集めにご協力を頂かねばなりません。その節はどうぞ宜しくお願いします。

防災など

その他としては災害・防災対策について家族会の皆さんと協議をさせていただ

いています。また2月には昨年度行いました福島福祉施設製品の共同購入を実施したいと考えます。今後とも利用者、家族、職員の三者で一体となって利用者の未来を支えていきたいと考えます。



つぶやき

小川原健太

本号はご覧のように縦書きに替えた。私の好みでこうしたかったからだ。紙面

の体裁がころころ替わっては落ち着かないが、本会のような場合は、替えていいと思う。一つのパターンに固定すると、役員が交代し新編集担当が、ワープロなど技術的に継承できれば問題ないが、そうでない場合に困ってしまう。とてもあんな会報つくれないかと役員になる気の引けてしまう人もいると聞く。その時々役員会(担当者)がもっとも作りやすい紙面を作ればいい。むかしの手書きの学級新聞風でもおもしろい。

それとこれまでの本紙はやや堅く、まじめすぎたかもしれない。我ながら古いセンスと思うものの、この歳になるとなかなか変えられない。若いお母さん方の感覚で思い切った会報が作られるようになるといいですね。

第6回

ダウン症「世界水泳選手権 兼 国際水泳競技会」に参加して

山田 信 祐

息子の雄太（21才）に同行して、イタリアで開催された「ダウン症国際水泳競技会（11月15日～24日）」に参加しました。この競技会は、世界ダウン症水泳連盟（英）が主催し、2年毎に開催されています。日本選手団としての参加は、ポルトガル・アルプフェイラ市（2008年）、台湾・台北市（2010年）に続いて、イタリア・ローノ市（2012年）が3回目です。ローノ市という町は、イタリア半島の付け根にあるジャノバとフランスのニースの間にある綺麗な砂浜をもつリゾート地です。

今回の大
地元が大き
行い、基準
チ、通訳、
り、各国選
行き来する
知的障害
をしてきて
そして、全



情になります。皆で健闘を称え合う姿を見ると、この大会に来て本当に良かったと思います。一人一人が目標に向かって努力をしてベストを尽くし、レース結果で次の目標を立てる。前向きに挑戦していくことの素晴らしさは、障害者も健常者も同じだと思う瞬間でした。雄太は、レース毎の入賞者に与えられるメダル（金1、銅2）を取り、各種目で自己ベストも記録更新しました。100m×4名のメドレーリレーに平泳ぎで出場しファイナルで日本チームが銅メダルを獲得することができました。4人の力を合わせてメダルを取る。感動的でした。

体力作りのために6才から始めた水泳で、雄太の人生がここまで豊かになるとは思いませんでした。続けられる限り続けてほしいと願っています。

食事は、ホテルでバイキング方式で、各国の選手・コーチとの国際交流の場でもありました。パッチ交換をすることで会話をしますが会話はジェスチャーで十分です。日本チームは東京都からいただいた「オリンピック招致パッチ」などを交換してきました。2年後は、メキシコです。新たな目標に向かって、水泳の仲間達（ライバル？）と高め合って欲しいと思います。

会には、20か国から参加しており、大会運営は、イタリアのな役割を持っています。日本選手団は、全国レベルで選考会をタイムをクリアした選手22名がエントリーしています。コーチ添乗員、選手の家族も含めると総勢50数名という選手団とな手団とともに同じホテルに宿泊し、競技会場にシャトルバスで毎日でした。

を持つ選手達ですが、皆この世界大会を目標にして、日々鍛錬しています。レース前には、その気迫が観客席まで伝わってきます。力を出し切ってレースを終えると素晴らしい笑顔と満足げな表



今号から、会員、利用者、関係者、広く紹介していき、来事、投稿、他薦の情報を、お寄せ下さい。

お知らせ

一月定例会

(日時)

二〇一三年 1月 24
日 13時から

(会場)

かたくりの家
(プログラム)

13時

定例会

13時45分

講演会(※)

15時

茶話会形式で講演
の質疑応答

(散会)は15時半〜16
時くらい)

※

講演会

「親亡き後」

でなく、元氣

なうちに成年

後見の利用を

考える

(講演者)

長島社会福祉
士事務所

長島正子

「社団法人日本社会

福祉会

福祉会権利擁護セン
ター ぱあとなあ東
京 会員」

成年後見人の仕
事を始めて5年目
の社会福祉士です。

これまで、障がい
を持つ方5人と高
齢者8人の方を支
援してきました。

障がいを持つ方
は、①親亡き後、
私が支援者になっ
た方、②両親がご
健在で父親といっ
しよに複数後見で
支援している方、
③親が高齢になり
後見人に私がなっ
た方がいます。

これからの事例
から、親の役割、
兄弟の役割、成
年後見人の役割
をみなさんといっ
しよに考え、成
年後見制度の学
習をしたいと思っ
ています。

※この講演は、九月
定例会(2012/9/13)
における講演会「成

年後見制度について」
に続く第二弾です。前
回は制度の概要を学び
ました。今回は障がい
のある方を支援する実
務に携わる方から制度
の具体的な運用、問題
点などについてお話し
いただきます。

なお第三弾として、
個別の相談会を考えて
いますが未定です。

※長島様は、講演会直
前の1月22日の午前中
にかたくりの家の施設
見学に訪れます。



ぶらさの新看板。評議員の都田さんを中心
に(社)水と会の製作、寄贈になるもの。
引っ越し、新館、新店舗、新看板と今年の
ぶらさは大忙し。来年もがんばって!

構想(予定)

(役員会の雑談の中で
出た案)

かたくりのシェフ
の上条群力さんに、
美味しい水餃子の作
り方を教わって、み
んなで食べたいね
と。上条さんに話し
たら、それおもしろ
い。水餃子は、やは
り粉から練って作っ
た皮からやらないと
だめね、と粉を練る
身振り。本格的なも
のになりそう。2時
間で、作って試食ま
でできるといふ。

日時、詳細はこれ
から詰めるとして、
ご期待下さい。

(理事長と話して)

障害者をめぐる法、
制度はめまぐるしく
変わるが、我々が利
用可能な補助、支援
などの制度について
は、行政側が積極的
にPRするわけでも
なく案外知られてい
ないものが多い。現
在、どういう制度が
あるか、これに詳し
い方に、お話を伺う
のも有益ではないか。
役員会でも未だ検討
していませんが、お
もしろいと思ひ
ます。

第2回

評議員会

開催される。

11月4日、ロ

グハウス。議事

の①ケアホーム

の東京都障害者

通所施設等整備

費補助金申請に

※障害者虐待防止法」
(その2)は都合によ
り休みます

については、事業計画、
資金、工程などの申
請書類について説明、
審議された。②平成
24年度収支補正予算
については、送迎費
加算、ケアホーム建
設に関わる補正。③
定款変更については、
障害者自立支援法に
基づく新体系事業へ
の移行に伴う条文の
変更。④その他、東
京都実地検査(監査)
の結果について報告
された。

※今年も大変お世話
になりました。いま
の役員は、今年度で
創設して一期(二年)
を終えます。来春に
は大幅な改選が見込
まれます。「ありの
会」をさらに発展さ
せたい。
よろしく願ひ
たします。
(ありの会役員一同)

5

かたくりの会と私と

野口 洋子



かたくりの会は、多摩養護学校からユギ・ファーマーズに活動の拠点を移し、本格的に農作業に取り組んでいった。親も子供も初めての体験で、突然畑の中を走り回る子供など苦労も絶えなかったが、がんばる姿勢が次第に評価される。自然に触れ、作物の収穫に子供らが生き生きとしてきた。

(前号まで)

3 ユギ・ファーマーズの収穫祭

ユギ・ファーマーズの畑仕事、収穫などは、平日の日中の作業となるので、かたくりの会の労働力が結構重宝された。平日ばかりでなく、土曜日には、子供たちの活動を中心に、親たちも2、3時間

の畑仕事に励んだ。だんだん農作業はかたくりの会が中心となつていった。それだけやりやすくなつた面もあるが、逆に手を抜けない。早朝の蚤当番の日は前夜から気が張っていたことは前号に書いたが、作物の収穫にはそれぞれに適期があり、雨だから寒いからと休むわけにいかない場合がある。晩秋の冷たい秋雨の下で掘った里芋や牛蒡(ごぼう)掘りなどなかなかの苦労であつた。とくに1畝ほどの牛蒡を縦長のスコップで掘る作業は、終えると足腰がへろへろ笑い、鼻水は出るわ、それを土の付いた手で拭いたの



とこでこんな大量

か鼻ひげになつてかなりヒサンなお母さんもいた。みんな若かったからできたのだろう。

いまふと思ひ浮かんだのは「こんぼり」のことば。郷里の北海道だけの方言なのか知らないが、無理難題を言つて手こずらせる、やつかしい人を指しているが、きつとこの難儀な牛蒡掘りからきてるのではないかと。

もあつた。

この頃、新しい入会者がどんどん増えた。私たちの活動が知られるようになった。三本松小学校、松ヶ谷中学校の身障学級から、梅野さん、宮田さん、本保さん、大宮さん、馬場さん、中條さんたち。その縁で、松ヶ谷中学校の山下先生がかたくりの活動を熱心に支援してくれるように

なつた。以前から、「今度、三宅島からきた山下先生というのはおもしろい人だつて」と評判の先生であつたが、噂に違わず頼りになる先生であつた。彼との付き合いは、かたくりの会の理事としていまに続いている。

多摩養護学校からは、津田さん、石坂(誠)さん、早乙女さん、吉田さん、谷口さん、河上さん。藤谷先生や藤沼先生、沢野先生、大田先生、白勢先生方には引き続き農作業など手助けしていただいた。かたくりの会誕生を後押ししていただいた大石校長先生には、会の月一回の会合に出席していただいた意見を仰いだ。

ユギ・ファーマーズを語るとき、年一回の大イベント、収穫祭を抜かずわけにはいかない。稲刈りの終えた11月23日、勤労感謝の日。会場

は寺芝会館。だいたい250人くらいの会員、家族、友人ら



を見込む(多いときで300人を超える)。朝市はいろんな野菜、栗の渋皮煮、ユギ・コロシ(ヘチマ水)、藍染めの毛糸、トマトピューレ、ハム・ソーセージ……もちろんすべて自前。いや唯一北海道産の小豆と金時豆の例外があつた。なぜわざわざ北海道産を持ち込むのかという質問に、鈴木さん曰く「日本の農業はひとつだ」と。繭からの糸とりや機織り、そば打ち、

バターやアイスクリーム作りなど、年々異なるが実演コーナーもおもしろい。会の活動を中心に農作業や地域を紹介するパネルが展示される。もちろんかたくりの会のものもある。

午後からの食事では豚汁、そば、餅つき、赤飯、漬け物、ハムソーセージ。ビールが足りなくなつて慌てて買い足しに走つたこともある。この豚汁作りが私たちの担当だった。300人からの豚汁作りは、材料の調達、買い出しに始まり、大量の野菜を切り、前日から下ごしらえをして、大鍋で煮込む。この火おこしから火力の管理は父親たちの役割だが、たばこに火をつけるくらいしか知らないから、結構これが大変であった。細かく裂いた竹で火を熾し、長い火吹き竹で吹き、団扇で煽ぐ。なんだか昔懐か

しい気がした。幸い、料理上手な母親が多かつたので、味は絶品。豚汁はかたくりの定番となつた。

父親とい

え、会場内には、子牛や山羊などの小牧場を作つたが、これは男ど

もの仕事で、かたくりの父親も多く参加した。

父親が出ると、どういふわけか利用者の兄妹が付いてきてにぎやかになるものだ。かたくりの子供らが太鼓をたたく。

「ラッセラー、ラッセラー」の掛け声も勇ましく多摩養護学校の先生方がチャグチャグ馬つ子を踊つた。

「勤労感謝の休日というのに、なんでこんなことをしなきゃいけないんだ？」と踊りながら大げさに



ぼやいてみせる先生。会場は大きな笑いに包まれた……。

昭和36年3月、由木中央市民センターが開設された。農作業ばかりでなく室内の活動もしやす

くなつた。酒井さん、難波さん、塩谷さん、井草先生などユギ・フアーマーズのベテランの会員から食品加工を学んだ。ハム・ソーセージ、梅ジャム、栗の渋皮煮、コンニャク、漬け物。また機織りなども教わつた。地域の経験者から手作りローソクや染色、料理、絵画など。いまこうして列挙していると、ずいぶんいろいろやつ

たな、我ながらあきれるほどだが、ユギ・フアーマーズ時代の4、5年だからいろいろ試みられたのであつた。将来、自前の作業所を持つとして、そこでできそうなものを模索する意味もあった。だから活動の指導者は保護者以外であること。

保護者はあくまでも補助するだけで、子供らが、他人から学んで続けていけるかというところを見ていた。いろいろ試みて、それぞれ面白かつたが、趣味でやるならともかく、作業所の「授産活動」として継続的に可能なものとなると、かなり厳しいと分かつてきた。

余談になるが、このセンターの体育館では、ランニング、球技、バトミントン、空手などを中央大学の学生ボランティアに世話になった。この募集に鳥井さんと私とで、出来て間も

ない中大の多摩校舎に行つたことが思い出される。そのメンバーだつた4人の参加したOB会が、つい半年ほど前、八王子であつた。若々しい学生だつた彼らもすっかりいいおっさん。面白い話が聞けた。

作業所でなにをやるにしても、まずはその作業所を作らなければ。といつても土地はどうする、建物はどうする。行政の支援を受けるためには、障害者の団体としての活動の実績（最低でも3年間、毎週決まつた曜日、時間を積み重ねる）が認められなければならぬ。当然自分らでもなにがしかの資金を準備しておかなければと、いろいろな事業に取り組み始めた。前述の食品加工の販売はもちろん、多摩市の公園の花植、清掃を請け負う。こっちは八王子

市のチームなので、交渉が大変だつた。月桂樹の葉を採つて乾燥させ、一枚いちまい伸ばしてきれいにバック詰めして売つたこともある。その木の持ち主は全然知らないのだから、いま考えるとよくまああやれたと思うよ。いろいろやつたが、お金は思うように貯まらなかつた。この面では前途はるかに遠しとため息ばかり出る。ところが、これが急転直下、思いがけず現実のものとして浮上してくる事態となつた。



(続く)